令和4年7月31日　大和町 桧和田地区の現場視察

資料４

- 日時　　令和4年7月31日　9:00～12:00
- 場所　　下桧和田生活センター
- 参加者　　約30名
  （地区住民、大和町都市建設課、宮城県仙台土木事務所、北上川下流河川事務所）
- 当日の行程　身洗川および防災調整池、桧和田排水機場等の現場視察。
  視察後に事務所の出前講座と意見交換会を開催。

- 水門を早く閉門すると、上流部の貯留エリア（大和町松坂地区）の遊水機能を早く使ってしまう。なるべく松坂地区の遊水機能を確保するように上手に門扉開閉をして欲しい。
- 機場に進入するには農道を通る必要があるが内水のため入れなかった。堤防側帯から階段で場内に入れるので堤防側帯を使わせて欲しい。
- なお側帯の除草は地区で行ってもよい（出入口管理）。

↑身洗川水門から身洗川上流を見る。河道内の高木は過年度に撤去。河道内は葦などが繁茂している（流下能力に問題は無い）

令和4年7月31日　大和町 桧和田地区の現場視察

桧和田排水機場、水門操作

- 平成27年、令和元年の出水時は機場内に浸水してポンプが故障し排水できず。
  （平成27年出水で身洗川左岸が決壊。令和元年10月出水で同河川右岸が決壊した）
- 機場の浸水を受けて、分電盤の位置を嵩上げした。
- 機場の耐水化をしたいが今後の農政局による機場改築の計画もある。
- 排水機場の吐出側の繁茂がすごい。伐採してもらうと流れやすくなる。
- 大規模災関による吉田川の河道掘削の進捗に期待
- 排水機場、水門操作により流域の地区ごとに浸水リスクが変化するので、
  誰がどのように操作するかオープンにするべき。

身洗川水門

桧和田機場内の視察

分電盤

エンジン

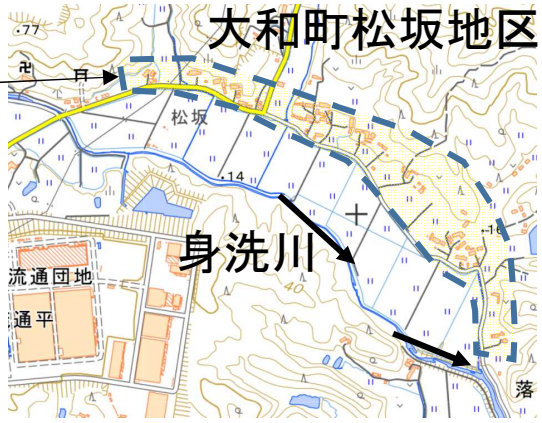
令和4年7月31日　大和町 桧和田地区の現場視察

令和4年7月31日　大和町 桧和田地区の現場視察

大和町松坂地区（身洗川上流）

- 松坂地区は身洗川の遊水機能を発現する重要な場所である。
- 松坂地区は、身洗川右岸のみ堤防があり左岸側は無堤。高水時には身洗川から左岸の田んぼへ水が入るシステム。河床勾配が急なので水位の上昇下降は早い。
- 身洗川の水門操作により、松坂地区の田んぼに水が入る（遊水機能）。早く水門を閉じると遊水機能を使い切ってしまう。効果的な水門操作が望まれる。
- 松坂地区では、左岸の築堤要望は特に聞こえてこない。早期に排水できること、濁水が田んぼに入らないことを耕作者が理解しているからだと考える。

松坂地区は田んぼよりも高い位置にあり、浸水しないよう配慮



令和4年7月31日　大和町 桧和田地区の現場視察

- 五輪防災調整池、苗代沢防災調整池は昭和61年に北部工業団地の造成に伴い設置したもの。また、直沢溜池は工業団地の造成時に面積を大きくした。
- 豪雨時は、直沢溜池がある水位を超えると、溜池から防災調整池へ水が流れるよう工夫されている。
- しかし、この2つの調整池は平成27年と令和元年豪雨でも、水が溜まっていない（時間降雨97㎜（1/50）で調整池は設計されている）。※（身洗川はH9に概成。）
- 溜池から調整池へ水が流れるシステムは平成27年豪雨後に現地を調べたら壊れていた。仙台土木に破損を指摘し、その後、土木事務所で修理。
- 調整池に水が溜まったことがないので樹木が繁茂している。下流のことを考えたら、調整池に水が溜まるように工夫して欲しい。

現地での打ち合わせ状況

苗代沢防災調整池の出口
余水吐
調整池吐出口
時間雨量97㎜で設計されているため水が溜まらない。出口を狭くする工夫を施して、防災調整池が機能するよう検討が必要

吉田川流域治水部会の活動として

- 浸水被害が生じている河川の現場視察
- 現場で生じている課題について、共有する良い機会となった

吉田川流域の流域治水の充実